

ただみ水田雑草考②

只見町でよくみられる水田雑草

只見町にはおよそ五〇〇ha（町面積の〇・七％）の田んぼがありますが、それらは只見川や伊南川の形成した狭い谷底平野および河岸段丘に散在しています。

二〇一二年から二〇一四年までの水田調査では、休耕田も含めておよそ七〇種類の植物が確認されました。その中から、おもに湿地に生えるものを除くと、狭い意味での水田雑草はおよそ五〇種類になります。出現頻度の高かったものはイヌビエ（タイヌビエを含む）、コナギ、オモダカ、タケトアゼナ、タイワンヤマイ、イボクサ、ハリイ、アメリカセンダングサなどでした。いずれも、からだの大部分が大気中にあり茎の下部や根だけ水中にある抽水・湿生植物であり、葉だけ水面に浮かべる浮

葉植物やからだ全体を水面下に沈めて生活する沈水植物はまったくみられません。そのような生活様式を持つ植物は、除草剤の影響を受けやすいために近年になって姿を消したものと推定されます。

イヌビエやタイヌビエは水田雑草として昔からよく知られており、栽培種のエヒと区別してノビエともよばれています。イネの刈り取り前に実を落とすだけなく、たとえ自らが刈り取

られても根元付近からさらに穂を出すことができます。このような性質が、地域を問わず本種の出現頻度を高めている理由のひとつなのですが、これは刈り取り除草に対する適応と考えられます。コナギは生長するに

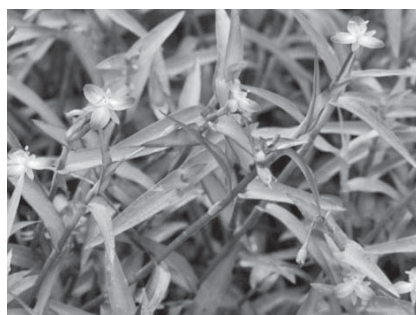
たがい葉を線形から披針形、さらに心臟形へと変化させ青紫の鮮やかな花をつけますが、肥料分を奪う力が強くイネの収量に大きな影響を与える植物で、只見町では「オトゲナシ」とよば



▲コナギ(2012年9月、蒲生)



▲ホソバオモダカ(2012年9月、蒲生)



▲イボクサ(2012年9月、蒲生)

れています。オモダカ（ホソバオモダカ）も幼葉は線形で、そのあと披針形、矢尻形へと変化した白色の花をつけますが、このような一世代にあらわれる葉形の変化は、これらの植物の進化の過程を示すものと考えられています。只見町では「クワノエ」とよぶ地区もあるようです。イボクサは休耕田に多く、畦ぎわから茎を這わせ淡い紅紫色の花をつけて旺盛に増えていきます。タイワンヤマイは県内では只見町における出現頻度も最も高い植物、タケトアゼナやアメリカセンダングサは帰化植物です。ハリイは只見川流域ではよくみられますが、伊南川流

域では比較的少ないようです。水田雑草の中ではやや貧栄養的な立地を好みますから、本種の偏在分布は、山林が直近に迫りやや急な傾斜を有する只見川流域の水田環境と関係があるように思われます。